

## ごあいさつ



理事長 木村 幸男

## ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

本年も北上信用金庫に対する皆様のご理解を深めていただくとともに、今後一層のご愛顧を願ってディスクロージャー誌「まる見えしんきん 2018」を作成いたしました。

さて、わが国経済は、大企業を中心に収益や業況感が改善する中で、設備投資が緩やかな増加基調にあり、個人消費については雇用・所得環境の着実な改善を背景に底堅さを増しており、日経平均株価が26年ぶりの高値をつけるなど、国内経済総体としては緩やかに拡大しております。

地域経済においては、設備投資及び個人消費共に持ち直しの動きが見られ、一部業種においては人材確保が課題となっております。昨年9月には10年来の念願であった大手企業の半導体工場の北上市への建設決定という地域経済にとって大きな明るい期待が持てる話題がありました。一方で信用金庫業界を取り巻く環境は、長期化する市場金利低下の中での金利競争の激化など、厳しい環境が続いております。

こうした中、当金庫は、この地域とともに歩む金融機関として、地域活性化に向けた北上市および西和賀町との連携した取組みをはじめ、西和賀町の地方創生事業として、地域資源を活用した魅力ある地域づくり、ブランドづくりを進める「ユキノチカラ」プロジェクトに28年度に引き続き積極的に取組んだほか、「創業支援塾」、「きたしん次世代経営塾」及び「よろず支援拠点」等の実施による取引先支援や、地域の次世代を担う子供たちへの金融教育の実施など、様々な地域貢献事業に取組みました。また、新たな取組みとして、岩手県内の信用金庫としては初めて、日本政策金融公庫農林水産事業と連携する形での農業支援ローンの取扱を開始しました。

また、当金庫は、本年9月3日に創立70周年を迎えます。地域の皆様と共に歩み、地域の発展と共に今日を迎えることができました。これもひとえに皆様の長年にわたるご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

今後においても当金庫は、円滑な金融仲介機能の発揮とコンサルティング機能の強化により、中小企業の育成に取組み、お客様本位の良質な金融サービスの提供と地域貢献の取組みを継続し、地域社会の繁栄に貢献してまいります。

本誌では、平成29年度事業概況やコンプライアンス態勢、地域貢献活動などを取り上げ、当金庫の経営内容について分かりやすく説明しておりますので、なにとぞご高覧いただき、当金庫へのご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

皆様におかれましては、今後とも、変わらぬご支援、お引き立て賜わりますようお願い申し上げます。

平成30年7月